

## 第Ⅲ部

### 学長から学生へのメッセージ

教育に生き、教育に死するという信念でこの道七二年、教育一筋に生きてこられた学長から、毎年の式辞と学長講話を通じ、武田ミキ教育の真髓が学生へ送られる。式辞は入学式、学園創立記念式および卒業式の三回、学長講話は「新入生の皆さんへ」「開講に当たって（二年次生以上）」「教育実習の前に」「夏休暇を迎えるにあたって」等など、六つ以上になる。

その内容の起承転結の起句はそれぞれ異なっているが、第二の承句以後の内容は一貫して不動。学園創設の動機並びに建学の精神が述べられており、その理念が学園訓、学章および学園歌に織り込まれていることの説明とその教育の徹底から構成されている。それらのうち、特に学長講話は教育理念の徹底もさることながら、武田ミキ学長の教育の独自性があると考えられるので、学長講話の前置きを一部掲載する。

『学長講話は、何所の大学の学長様もなさっておられることなので、私がこうした場合で取り上げて申すのもどうかと思いましたが、私の話は学長が学生へ言う四角張った気持や態度ではなく、勿論話の内容も理路整然とした立派な講演形式のものでもありません。親と子が向い合って親しく楽しく気楽に話合う、ただその中に私の教育信念、すなわち人の道を織り込み乍ら親子話をするといった態度で

行っておるものです。

大学創設後、暫く授業もしていたのですが、この節、高齢になったのでいたわる意味か役に立たなくなつたからか教務課の方からお払いを受けたので授業には出ていません。しかし、学生の声を聞き、姿を見なければ夜も明けん、日も暮れんと言つた心境の私なので、こうした学長講話の時でなく、廊下でも校庭でも、学生と顔を合わすと、ただ挨拶だけですり交うのではなく、何か話したいのです。そんな私なので、今はただ学長講話が唯一の楽しみです。……』

こういつた口調で話が始まり、先に述べた内容を諄じゆんと諭すように繰り返し繰り返し述べられる。もちろん入学式の式辞においても篤と述べておられるが、それは格式張つて儀式的なものになり勝ちで、十分理解させ会得させると言う処までには及ばない。それ故、一年次の前期中に改めて「新入生の皆さんへ」に及ぶのである。主な内容は、最高学府に学ぶ大学生としての心構え、決意である。すなわち「与えられたものを受け取るだけでなく、自ら求め、自ら学び取る、多く求めれば多く得られる、少し求めれば少ししか得られぬ。食欲な知識欲を持つて」と、大学生であることを自覚させるのが目的である。また、二年次生以上、あるいは卒業年次生に対しては、人はみな常に自己の足跡を省みつつ前進せねばならないと、過去一年間の大学生活の反省を促される。特に卒業学年においては、この一年間で大学の教育の締め括りをするのであるから、最善を尽くして有終の美をおさめるべく十分なる覚悟をして出発するよう、自覚を求められる。

詳しい内容は第一章から四章にわたって述べられており、さらに、毎年三回発行される「広島文教通信」にも掲載されるのでその解説は省略するが、ここに平成三年度の入学式と卒業式の式辞を載せさせていただきます。入学式の式辞内容が卒業式に至っても、なお完結することなく繰り返されている。思うに、卒業後もこの精神を心してあなたの一生を全うするように願って結ばれるのであろう。

### 平成三年度入学宣誓式式辞

庭に木々も芽を吹き今や桜の花も咲きほこらんとする今日の佳き日に、広島文教女子大学大学院第六回、大学第二十六回、短期大学第三十回の入学宣誓式を挙行致しますに当たり来賓の方々におかれましては、公私ともに御繁忙の中、わざわざ御臨席を賜り、御家族の皆様には遠路はるばる多数参列を頂きまして、この記念すべき式典をこのように盛大にとり行うことができますことは、入学生達はもとより本学にとりまして、この上もない光栄に存じ感謝に堪えない次第であります。高い席から甚だ失礼でございますが、ここに謹みて厚く御礼申し上げます。

皆さん、本年の本学への入学志願者は三三四名でありました。皆さんは、この大勢の志願者の中から選抜されて入学許可宣言を受けられ、本学学生としての栄冠を得られたのであります。皆さん御自身

はもとより、御家族ならびに恩師の方々のお慶びもさぞかしと存じます。

御家族の皆様、御息女様の大学進学につきましては何種々心を砕かれた事と思います。それだけに今日の慶びは大きい事と存じ心から御祝詞申し上げます。皆さん広い社会の中には大学に進学して高度の専門的學術の研究をしたいと願う熱心な青年子女は多数おられるのでありますが、せっかくそうした希望を持ちながらも家庭の都合、その他様々な事情のためにその希望が叶えられぬ人々も沢山ある中を、皆さんはこうした学問の府である大学に学ばれると言うことは、実に幸せの限りであると申さねばなりません。皆さん、今日のこの慶びこの感激をしっかりと胸に納め、御家族の方々をはじめ貴方をここまでに育み導いてくださいました方々に深く感謝するとともに、そのお心にお応え申すべく大いに奮起して充実した学生生活を営み、社会のお役に立つ立派な人になることを固く決意して出発してください。

次に皆さん、皆さんの中には本日ここに至るまでには、色々と考えられたり迷ったりされた方もあつたでしょう。しかし、最終的には本学で学ぶことを決断されたのであります。決断して出発されたからには、途中で挫折することなく初志を貫徹することを自己に固く誓って出発してください。

さて、皆さん、皆さんに何よりも一番先に理解し実践して頂かねばならぬのは、本学園の建学の精神である「真実に徹した堅実なる女性の育成」と言うことであります。

本学園の教育は、この建学の精神を基盤として社会の浄化進展に尽くす人材の育成、地域社会の文化向上の一翼を担う人材の育成、ひいては社会環境の欠陥や忌わしい社会風潮に惑わされることなく強く

正しく明るく生き抜く女性の育成を目指しております。

この建学の精神に則って打ち樹てている三ヶ條の学園訓は、今日皆様の前に掲げてあります。

第一條が真理を究め正義に生き勤労を愛する人になりましょう

第二條は責任感の強い逞しい実践力のある人になりましょう

第三條は謙虚で優雅な人になりましょう

第一條には、人道に悖ることなく人としての正しい道を歩み続ける人であって欲しい。正しいことに向かつては勇敢につき進む人であって欲しい。骨身を惜しまずよく働きよく努力する人であって欲しい。

第二條には自己に貸せられた任務即ち、責任は完全に果たす人であって欲しい。

第三條には素直で優しくて慎みのある礼儀の正しい奥ゆかしい女性になって欲しい。これらは、こうあつて欲しいという私の強い念願が顯示されているのであります。そうして、この三ヶ條は独り本学学生だけの生活信條ではなく、私達人間にとつての永遠に変わることはない生活理念であると信じております。

今一つ、本学の学生の受け入れ方針について申し上げます。本学に受け入れたいと考えている学生は、単に表面的な大学生活に対する「あこがれ」からでなく、大学教育なるものを理解し、確固たる目的意識をもってこれと取り組む意欲と熱意のある者を迎える方針で、これの実現に努めております。したがつて、皆さんは本学の建学の精神に添いながら時代の要請を的確に受け止め、これに即応すべく努力して

頂きたいのであります。目下、本学では現今の情報化社会に対応し得る女性の育成を考え大型の情報機器も導入し、その教育の徹底を期するとともに、大学教育の個性化を増進し、生涯学習の場として大学機能の拡充にも努めております。それは、地域文化研究所、教育研究所の開設、教育機器、情報教育、美術教育研究指導、教育相談などの各センターの設置などに具現されているところであります。

さらに、本学では国際交流の重要性に着目し、まず近隣諸国の友好からと考え、韓国全州教育大学、中国の大連外国語学院との姉妹縁組を締結し大学間における教育研究の交流に努力しています。その上、大学における学術研究の深化をはかるべく大学院二専攻を設置し今春第四回の修士課程終了者を送り出してまいります。また、生涯教育時代に即応して社会人入学の制度も創設してまいります。本年度も十五名の方々を受け入れることになってまいります。

このように本学では英知に充ちた生活倫理の実践修得ができるように大学体制を整えております。その体制の中で私の教育信条としておりますのは、深い学問、高度な技術を真に人間の血となし、肉とすするための奥ゆかしい人間性の函養であります。大学における専門的学術の探究も、その土台となるのは人間性であります。土台のできていない上に学問技術をのせても、その効果は表われず、光りもできません。世に言う砂上の楼閣であってはならないのです。本学が「心を育てる教育」「人を育てる教育」ということを申しますのも、その根源はここにあるのであります。

現今の科学万能の物質至上主義は、私共の生活に物質的豊かさはもたらしましたが、その反面、人間

的な倫理観が失われて様々な社会悪が続出する現状となっております。人間が万物の霊長として尊重される所以は、人間の倫理観あつてのことです。戦後の教育において、この倫理観を植えつける点に欠けるところがあつたように思われます。私は学問・研究の府である大学教育の責任において、こうした人間の倫理観の確立に努め、立ちおくらせている特性の函養に一段と力を入れ、知性と特性を調和させた人間の育成が肝要であると考えます。

これは私の建学以来抱き続けている強い念願であります。学生の皆さん一人ひとりが自己の英知と確固たる良識とに立ち、生きることの尊い意味を自覚しながら、最高学府の学生としてその重い責任を充分認識し、学術の探究に徳性の函養に真摯な態度で取り組んでいただきたいのであります。

皆さん、大学は義務教育とは異なり、自ら求めて学問する場であります。自ら深く求めれば深く得られ、浅く求めれば浅くしか得られないのであります。したがって、いくらでも真理を求めて深く研究することができません。しかし、その反面、求める心が浅ければ怠惰放縱に流れる恐れもありますから、その点に充分留意して、どうかより自主的に、より能動的に、より積極的な態度で日々を精一杯励んでいただきたいのであります。

以上申しました中には、前後したことも重複した所もあつたと思ひます。皆さんの御家族の方々は、貴女の長い将来の幸せを願われ、これから二ヶ年ないしは四ヶ年の歳月と多額の学資とを与えて、最高学府の本学に学ばせてくださるのであります。そうでありますから、その初めに当たって、大学教育な

るもの、さらには本学の建学の精神・教育方針なるものを充分理解し、御家族のお心に応えることはもちろんのこと、社会の人びとの期待に応え得る立派な人となるよう、最大の努力をして頂かねばなりませんので、長々とくり返し申し述べたような次第であります。

御家族の皆様、本学の教育方針につきましては先刻来より縷々と申し述べてまいりました通りでございます。どうか皆様におかれましても、本学教育方針の趣旨を十分御理解くださいます御息女様が立派に成長なさるよう、御援助御協力をお願い申し上げます。

長くなりましたが、以上をもちまして本日の意義ある入学宣誓式の言葉といたします。

平成三年四月二日

広島文教女子大学長 武田 ミキ

### 平成三年度卒業式式辞

校庭の木々もかれんな芽をふくらませ始め、そよ吹く風も春の訪れを覚える今日の佳き日に、希望にみちた門出を温かく見守るかのような春の陽光のもと、広島文教女子大学大学院文学研究科国語学国文

学専攻第五期生、教育学専攻第三期生学位記授与式及び広島文教女子大学第二十三回、短期大学部第二十九回卒業証書授与式を、本学園にゆかりの深い来賓の方々の御臨席を仰ぎ、また、多数の保護者の皆様をお迎えして、ここに厳肅かつ、盛大に執り行うことのできますことは、卒業してゆく学生達はもとより、本学にとりましても、この上もない光栄に存じ、感謝にたえない次第であります。高席から失礼でございますが、謹んで厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、皆様の永年にわたる御苦労が実を結び、御息女様には今日この栄ある日を迎えられることが出来たのであります。皆様におかれましても、さぞかし御満悦のことと存じ深甚の敬意を表するとともに、心からお祝詞申し上げます。私どもは過去四ヶ年間または二ヶ年間皆様の大切な御息女様の教育に懸念の努力を続けて参りましたが、皆様の御期待に十分そい得なかつた点多々あるかと存じます。どうか今後は、本学において習得されましたものを基盤として、お膝元でさらに磨きをかけてあげてくださいませよう、お願い申し上げます。

ただ今卒業証書をお受けになりました五五七名の皆様、御卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。開学三十一年を迎え、こうして多数の有為な卒業生を社会に送り出すことは、私どもにとりましても限らない慶びであります。

さて皆さん、皆さんは今の卒業証書授与をもちまして本学を卒業し、新しい人生の旅路の第一歩を踏

み出されるのであります。皆さんのこれからの旅路が安らかなものであり、またみのり豊かなものとなることを願って、私は皆さんに一言最後の言葉を贈りたいと思います。

皆さんは今日を以て過去十四年ないし十六年、十八年にわたる長い学校教育を終えられるのであります。今日と言う日は、皆さんの人生にとって一つの重要な時期を画する意義深い日であり、さらに高い理想と抱負をもって進まれる新たな人生の門出を祝福する日なのであります。社会の人々は皆さんの前途を祝福し、今後の皆さんの活躍を強く期待されているのであります。皆さんは、その期待を裏切ることのないよう十分なる心の用意をして出発していただきたいのであります。

さて、平成四年という「時代を画する」年に社会に巣立つ皆さんが、現在目前にしている社会は決して平穏ではありません。昨今の国の内外の情勢をはじめ、諸々の情勢も、周知のとおり誠に複雑であります。他方、国家の未来を担う大切な少年少女の非行、登校拒否、校内暴力等も年々増大しております。こうした未成年者の問題の原因について、世の人々は色々指摘しております。もちろん原因は多方面にありましようが、私がいいますに、豊かな生活に慣れるに従い、精神面の「ゆるみ」がでてきて、自己のあるべき真の姿を見失い、知らず知らず安易な生活態度に陥り、真剣に自己の確立に努める姿勢が薄らいできたことが大きな原因ではないかと思ひます。

こうした社会現象を目の前にして、物質的豊かさと言うことを今一度考え直して見る必要があるのではないかと思ひます。ともかく、苦勞のない人間は怠惰で意志薄弱な存在となり勝ちなのであります。

少年少女の非行が全国に蔓延してきた責任の一部は、我が子の養育に責務を有する女性のあり方にもあると思います。このような社会に対処するために色々な提言がなされております。しかしながらこれらの提言が実際に役立つためには、その前提として、若い皆さんの二十一世紀に挑戦する意欲と創造的活力が、先ず何よりも大切であると思います。どうか皆さん 皆さんの生命の源から湧き出てくる創造的活力をもって二十一世紀を生き甲斐のある時代にしてください。

そのためには皆さんは本学で修得した基礎能力を、今後さらに自主的に磨きあげて行かなければなりません。いわば、皆さんは本学で人生の生き方を学んだのです。国の発展も社会の浄化も帰するところ人であります。その人づくりの根元は女性であります。本学の教育理念は人づくりの根元である女性の育成にあるのであります。この事は皆さんの入学時にも縷々と申しました。また、在学中もこの方針で指導してきましたが、今日は最後なので重ねて申します。本学の教育理念は専門的學術の濫興を究めるだけでなく、現代社会において、ややもすれば軽視されがちな精神面の教育を重視し、人間本来の在り方に徹した真の人間づくりなのであります。皆さんは、在学中本学のこの教育方針に則って自己の人間形成に努力し将来良き社会人として、良き母として、立派な基礎は十分養われていると思いますが、実社会に第一歩を踏み出す皆さんは、社会の現実をよく踏まえ、今日まで努力して積み重ねてきた高い知性と精進して築き上げてきた人格をもって、社会の浄化発展に、進歩向上に、強く働きかけていただきたいのであります。

さらに今一つ、皆さんに申しておきたいのであります。それは私の一生を通して強い信念として抱いている「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」ということであります。これを皆さんは古い言葉として聞き流さないで、生きた体験として知っておいていただきたいのであります。成らぬと言うのは努力が足りないからであります。成らすためには強い根気と努力が絶対に必要であります。私はこれまで努力一点張りを通してきました。努力には花が咲き実を結ぶことを身をもって体験してきました。現代の若い人々の中には、理論に走り実践に欠け勤労を厭い苦難に耐える力の乏しい人もあるようであります。長い人生航路には紆余曲折、茨の道も多いと思います。しかし、如何なる苦難障害がありましようとも、これを持ち越える強い根気と努力とがあれば絶対に落後することはありません。自己の最大限を尽してこれを切り抜け、目的の彼岸に達した時の喜びは実に大きく、実に尊く、勇気もまた一段と湧き上り、ますます自信が盛り上がってくるのです。どうか皆さん、努力によってこの尊い悦びを味わう人であってください。

さらに皆さんが一生忘れてはならないことを最後に「とくと」申しておきます。それは、皆さんの御両親への報恩であります。貴女の御両親は貴女を最高学府の大学までお進めくださり、貴女が立派な有用な社会人となり将来幸せな人生が送られる事を願われ、長い間の御苦勞を御苦勞ともされず、貴女の日と今日に想いをかけ、努力に努力を続けてくださったのです。そのお蔭で今日が迎えられたのであります。この御両親の慈愛が先刻受けられた卒業証書に沁こんでいることを決して忘れることなく、

深く感謝の誠を捧げるとともに、この御高恩にお報い申さねばならぬことを、しかと肝に銘じて実行していただきたいのであります。皆さん、最後の最後までどくどくしく申しましたが、子を想う親心とも言うべき私の心境をお察しく下さいましてお許しください。皆さん、名残はつきませんがこれでお別れに致します。

なお、皆さん、縁に包まれた美しい自然と豊かな文化環境に恵まれた皆さんの母校は、心の古里として何時までも皆さんの胸の中に生き続けますようお願いしております。どうか卒業後といえども、研究にもまた色々な相談にもお出でください。お待ちしております。

では皆さん、新しい人生への第一歩を雄々しく、力強く、踏み出してください。終わりに皆さんの御健康とお幸せを心からお祈りして驢の言葉と致します。

平成四年三月二十日

広島文教女子大学長 武田 ミキ

(文責 豊後 孝江)